

令和3年度 金城大学・短大合同研修会及び専任・非常勤合同研修会 報告書

【日 時】令和4年3月8日（火）10：00～11：40

【場 所】金城大学医療健康学部棟 H2 1 1 中講義室（オンライン参加可）

【方 法】対面受講または Zoom によるオンライン受講

【出席者】金城大学短期大学部幼児教育学科 専任教員(対面：14名)

金城大学社会福祉学部子ども福祉学科 専任教員(対面：7名、Zoom：1名)

非常勤講師 (Zoom：5名)

【司 会】金城大学短期大学部幼児教育学科 米川 祥子

【書 記】金城大学社会福祉学部子ども福祉学科 浅井 和毅

【内容】

2019年3月に、大学子ども福祉学科と短期大学部幼児教育学科の連携を促進することにより「金城の保育」の魅力を増やせ、より学生満足度の高い教育の展開を目指して、「『金城の保育』大短連携プロジェクト」を立ち上げた。本プロジェクトの取り組みの一つに、「金城子育て支援センター（Kinjo Childcare Support Center）」の開設があり、保護者・教員・学生がともに学び合い、地域の子育てを支援する機関として、2022年4月の開設に向けて準備を進めている。本センターの中核となる事業として、地域の未就園児およびその家族との交流をはかる「KINJO おやこひろば」がある。2021年度の4回の試行を経て2022年度からの本格施行に向けて、両学科に所属する教員が県内の子育て支援の実際や大学が子育て支援を行う意義等を知る機会として、本研修を実施した。

10：00～ 開会挨拶：金城大学社会福祉学部子ども福祉学科 齋藤 修啓

10：05～11：10 講演

「今、子どもや家庭に何が起きているか～母子保健の現場から～」

講師：石川県南加賀保健福祉センター所長・小児科医 沼田 直子 氏

子育て支援においてめざすべきものは何か、母子保健の観点から講演していただいた。

「『真に自由な主体』としての人を育てる」ために、大人ができることは何か、親が求めていることは何か、また、支援者として親にできる援助は何か、など、事例や、データをもとにご教示いただいた。「親の子育て力が落ちた」と捉えるのではなく、現代の子育て家庭を取り巻く環境が、親に孤独感や閉塞感を感じさせており、「子育て環境の力の低下」ととらえるべきではないかとのことだった。親子が「心地よく響きあえる関係性」を築くために、「関係性を育てる」親支援の必要性を話されていた。

11：10～11：30 質疑応答及び意見交換

11：30～11：40 閉会挨拶：金城大学短期大学部幼児教育学科 副学長 吉岡 利恭

◆研修終了後、Google フォームを利用して、アンケートを実施した。

<アンケートより>

本研修会に参加していかがでしたか。

大変良かった	19
まあまあ良かった	6
あまり良くなかった	1
計	26

*感想より一部抜粋

本日の研修会のご感想（質問も可）をお書きください。
現場とのつながりが深い沼田先生のお話を通して、子育て世代の母親たちが求めることや、これから保育の道に進む学生たちが必要な力について、意見交換をすることができてとても充実した時間でした。
心に残るお話でした。大学での子育て支援をどのように行っていけばいいのか、ヒントをいただいたのではないかと思います。母子保健の観点からのお話でしたので、子育て支援の原点を学べたように思います。本日はありがとうございました。
愛着回避型の子どもが増えている印象があるというお話を聴いて、それは保育を志す学生も同じではないかなと感じました。保護者と保育者と双方が回避型となった場合のやりとりが不安になりますが、少なくとも学生と関わる教員とのやりとりの中で安心感を体験してもらうことが大事なことになるのだらうと思いました。お話聞きながら自分でもいろいろ考えるきっかけとなりました。ありがとうございました。
親・子どもの最近の傾向(回避型の増加など)がよくわかり、保育者養成機関としてどのようなことに取り組みなければならないかよく理解できた。
子育て支援について、母子保健の視点から分かりやすくご講義頂き、有難うございました。現代社会における母親の孤独と不安を考えた時に、「共同養育」「ドゥーラ」の持つ「もう一つのホールディング」が、かつて日本の地域社会の子育て環境の中にも存在していた事、その喪失が子育てに及ぼす意味を改めて考えさせられました。多忙な生活におわれ、常に評価される環境にいる母親と子ども達。何を指す子育て支援なのか、何のための母親支援か、先生のお話の中に無数に問いかけがちりばめられていて、宿題を頂いた気持ちです。
子育て支援の難しさが教員間で共有できた。
乳幼児期の母（保護者）への子育て支援の意義、大切さ、そして難しさなど、親子の広場実施に向けて大きな示唆を与えていただきました。それとともに、保育者養成校へもやんわりとご意見をいただいて刺激になりました。